今こそ地域住民とつながり続けよう
－コロナ禍における地域包括支援センターの取り組み－

社会福祉法人世田谷区社会福祉事業団　松原あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）
森川　敦子、国枝　知香、佐藤　彩子、横山　真紀
塩崎　友美、金沢　淳子、井上　千恵
協力：松原あんすこ登録ボランティア（動画作成）

（地域包括支援センター　コロナ禍　　地域住民）

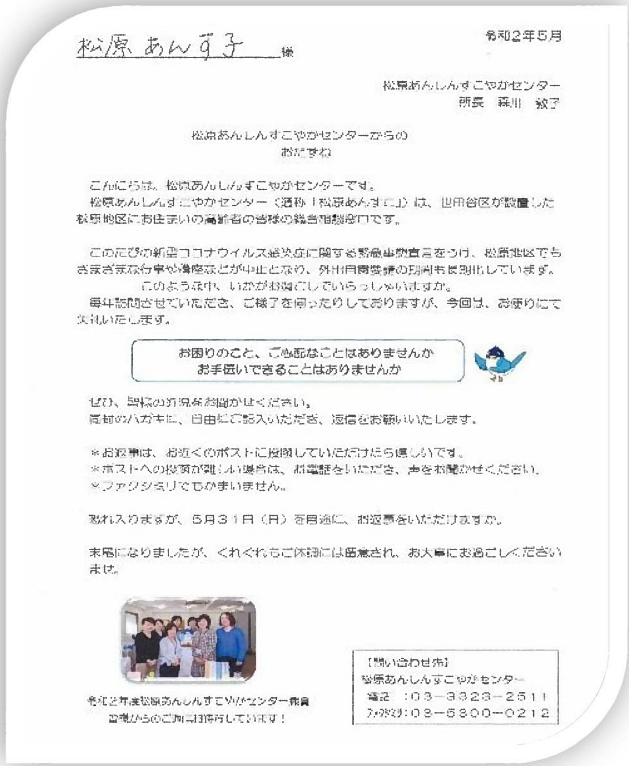
１　はじめに

介護保険法に基づき設置された地域包括支援センターは、世田谷区では「あんしんすこやかセンター」略して「あんすこ」と呼ばれている。

松原あんしんすこやかセンターは、高齢者人口約５，７００人の松原地区を、７人の職員で担当する「地区に身近な相談窓口」である。

２０２０年１月、わが国でも新型コロナウイルスの感染が確認された。この未曽有の感染症拡大は、住民の生活、地域活動、そして私たちの仕事にも、大きな変化をもたらした。

「会えない時でも、集まれない時でも、住民や地域の関係機関とつながり続ける」ために始めた取り組みについて報告する。


松原 あんす子 様

令和2年5月

松原あんしんすこやかセンター
所長　森川　敦子

松原あんしんすこやかセンターからの
おたより

こんにちは。松原あんしんすこやかセンターです。
松原あんしんすこやかセンター（通称「松原あんすこ」）は、世田谷区が設置した松原地区にお住まいの高齢者の皆様の総合相談窓口です。

このたびの新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言をうけ、松原地区でもデイサービスや行事や講座などが中止となり、外出自粛要請の期間も長期化しています。
このような中、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。
毎年訪問させていただき、ご様子を伺ったりしておりますが、今回は、お便りにて失礼いたします。

お困りのこと、ご心配なことはありませんか
お手伝いできることはありませんか

ぜひ、当センターにお聞かせください。
同封のハガキに、自由にご記入いただき、返信をお願いいたします。

＊お返事は、お近くのポストに投函していただけたら嬉しいです。
＊ポストへの投函が難しい場合は、お電話をいただき、声をお聞かせください。
＊ファクシミリでもかまいません。

恐れ入りますが、5月31日（月）迄目途に、お返事をいただけますか。

末尾になりましたが、くれぐれもご体調には留意され、お大事にお過ごしください
ませ。

令和2年度松原あんしんすこやかセンター職員
皆様からのご声に日々対応しています！

【問い合わせ先】
松原あんしんすこやかセンター
電話　：03－3323－2511
ファクス：03－5300－0212

２　松原あんすこ　新たな取り組み

（１）ハガキ大作戦

会えない時でも、ハガキを使って相手を知ろう！

①自由に生活の様子や心情を書いてもらえる工夫

②３つのステップで実施

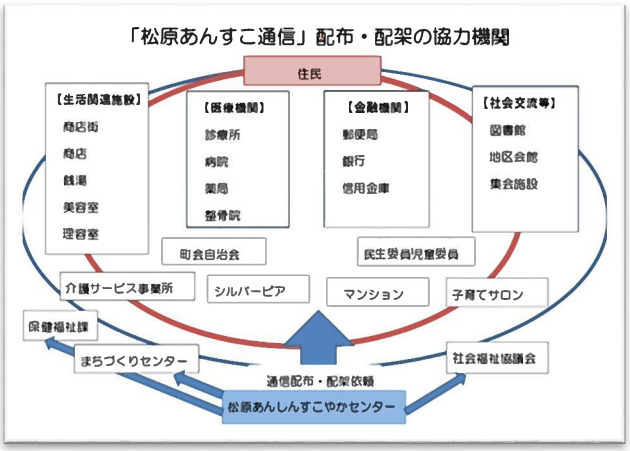
　案内文を添えてハガキをポスティング→

　個々の返信への対応→返信のない人への対応

③これまでの効果と課題

　効果　住民の生活課題を読み取ることができた

　課題　世代の特性に応じたニーズ把握方法の選択



（２）ステイホームでも続けられる健康づくり

住民が主体的に続けることのできる健康づくりに取り組もう！

①４つのステップによる実施計画　　動機づけ→自宅でフォロー→再び健康測定→自主グループへ

②第２ステップ実践までの効果と課題

効果　会場分散の効果を検証できた／個別フォローは健康づくり継続につながった

課題　より若い世代も参加できる講座の工夫と継続

（３）情報は大事なつなぎ役

集まれないときでも、情報をとおしてつながり続けよう！

①「松原あんすこ通信」の活用（住民と双方向のやりとり・配架先開拓による「見守りの目」拡大へ）

②あんすこ出入口ガラス面を「掲示板」に見立てて情報発信

③これまでの効果と課題

効果　・発信することで、住民や地域から反応が返り、やりとりにつながった

・関係機関との連携先を開拓し、地域の見守りの目を増やすことができた

課題　住民等が欲する情報の、迅速かつ確実な発信

３　むすび

感染症や災害など、今後どんな不測の事態が起きようとも
住民の暮らしの困りごとに応える相談窓口であり続けたい
そして
「そうだ、あんすこに聞いてみよう！」と
頼りになる松原あんすこを、これからも目指したい

＜助言者コメント＞　　川上　富雄（駒澤大学文学部社会学科社会福祉学専攻教授）

新型コロナ禍は、在宅福祉の身近な相談・情報・支援拠点である地域包括支援センターの業務にも大きな影響を与えました。そうした中で、「できない」理由を言い訳に使うのではなく、「どうすればできるか」を一生懸命考え、暗中模索の中で試行してきたこの一年の取り組みの報告です。

一つ目は、「ハガキ大作戦」で、文通により状態把握をしようとするものでした。６４％という高い回収率に繋がる様々な工夫や配慮には感心させられます。

二つ目は、４ステップ計画で取り組む健康づくりでした。①小規模な健康教室での健康測定と目標設定の動機づけ→②目標に向けての自宅での取り組みをカレンダーに記録→③再び健康測定を行い評価→④健康づくりの自主グループへというもので、現在はステップ②とのことです。

三つ目は、情報発信です。隔月発行の「松原あんすこ通信」を毎月発行するとともに、より地域の高齢者の目に触れるよう配布・配架協力先も６５か所から９０か所に開拓増加しました。また、あんすこ入口も目立つ掲示とチラシを持ち帰れるような工夫をしました。

年度の事業計画や補助金の縛りを乗り越え、柔らか頭で職員が知恵を出し合い努力と工夫を重ねて前進している好例といえるでしょう。